

国語科学習におけるデジタル教科書の活用

山梨県 甲府市立山城小学校 教諭 石川等

yamashiro@yamashiro-e.kofu-ymn.ed.jp

キーワード：普通教室での使用、授業改善の新たな視点の獲得

1. はじめに

本企画では、デジタル教科書を使用し、特に国語科においてどのような指導が可能であるかといったことを探ることを目的としている。また、使用環境については普通教室（教室用コンピュータ2台設置）を想定した。

2. 実施内容

（1）使用ソフトについて

光村図書出版から販売されている「光村国語デジタル教科書」（5年生版）を使用。このソフトは単に教科書の文章・挿し絵を収録しているだけではなく、指導の際に提示することで子どもの文章理解を助けるような資料（動画・静止画）や本文の任意の位置を朗読させることができる機能も備えている。従来からある教科書の挿し絵を拡大した「掛図」やポスタープリンターなどで教科書本文を拡大コピーしたものを使用する感覚とは違った感覚で文章の提示も可能となっている。

（2）指導にあたって

① デジタル教科書に慣れる

単なる教育用ソフトではなく、授業での効果的な活用を考える必要があるため可能な場面で指導に利用するようにした。教室の明るさにより「マーカー」機能の色の設定を考えたり、授業記録のために「PrintScr」キーを使って画面をコピーして保存するなどといった方法も取り入れたりした。

② 使用環境をどうしていくか

デジタル教科書は、電子情報ボードのような機器と組み合わせる使用することにより使い勝手が非常に良くなり、また、教師だけでなく子どもにも自由に操作させることが可能となる。しかし、電子情報ボードが普及するまでは、普通教室においてはおそらくパソコンとプロジェクタとスクリーンという機器環境で使用されることが多いことが想定される。今回の実践でも、当初はノートPCとプロジェクタとスタンド付きのスクリーンを使用していたが、あまりにも準備に時間がかかることや、スクリーンと黒板との使い分けが難しくなることが重なった。そこで、マグネットスクリーンを用意するとともに、教室にあるデスクトップPCからマウスケーブルとRGBケーブルを延長し、可能な限り準備を手早くすませるようにした。当初は10分程度かかっていた準備が2～3分に短縮された効果は大きかった。

（3）実践の概要

国語科単元「工夫して発信しよう」を今回の企画の中心的実践単元として位置づけた。この単元では、説明文の読み取りと併せ、読み取りにおいて得た情報発信に関わる知見を生かしながら、子ども自身が調べ学習と発表とを行うことになっている。前段の説明文の読み取りの部分で、デジタル教科書を使いながら、内容の読み取りを一斉に行う場面を設定した。ここではこれまでの使用から一歩進め、デジタル教科書だけを使って文章の読み取りを一斉に行うなかでニュース番組制作スタッフの仕事から情報収集と情報発信についての学んだことを整理させるようにした。そのために、子どもたちの座席も普段の座席配置ではなく、机を使用せずにメモ用ボードを持たせて教室の前に集まる形をとった。



写真1 重要な部分に線を引く

3. 成果と課題

デジタル教科書は単なる教授用ソフトではない。このソフトを使うことで授業のデザイン自体を新たな視点から見つめ直すことができる。

今回、重点的に使用した単元の指導だけでなく他の教材の指導においても、実際に使用するなかで、「全員で同じものを見て（読んで）→その場で考え→意見を出し合う」という一連の流れをスムーズに行うことができた。「教科書の掲載箇所を確認しあう」という手続きを踏まずにすぐに全員で考えることができるという効果は大きい。今後は、さらに使用に際しての工夫を重ねる中で、授業を変える契機となるような知見を蓄積していきたい。



写真2 席の配置を変更して